

『未来の私へ』

兵庫県西宮市

照道館樋ノ口少年剣道会

小学6年生

渡辺千晴

「お前は役者か!」「また座ってるのか!」剣道を始めて一年近く、先生からも父兄からもよく言われたなつかしい言葉です。六歳離れた兄と一緒に私も頑張ってみようと思いついたのが小学3年生の時。兄の試合について行くたび、剣道なんて簡単だと思っていた。こんなに奥深く、稽古が苦しいものとはわからなかった。面をつけると本当にきつくて「どうすれば先生をごまかして休憩できるかな?」そんな事ばかり考える毎日。苦しそうに泣いてみたり、ゆるんでもない面ひもを何度も結び直したり、何かと理由をつけては片すみで座っていた。先生には当然お見通しで、次第に声もかからなくなり、千晴は又役者しているよと父兄達も笑っているのです。「なんで無視するの?あかんわ、もうやるしかない」その時から真剣に私の剣道生活が始まったのです。兄の背中を追い続け、あんな風になりたい、力強い一本が打てるようになりたい、しっかりと残心のとれる剣道がしたい。いつしか自分の中に立派な剣士になりたいという気持ちが芽生えてきたのです。

私は、母と兄の3人家族です。母は仕事が終わると道場に来て、試合の時はどんなに疲れていても応援に来てくれます。体育教師である母は、自分が経験した貴重な話など、苦しい時には精神的にも私を支えてくれています。その母が四年前にガンになりました。まだ小さかった私は、病気の事があまり理解できず、兄が一生懸命母を支えていたのを覚えています。初めはご飯の炊き方もわからず、一人で頑張ってみたものの、炊飯器からご飯があふれ出てきた。仕事から帰った母はそれを怒ることなく、「ありがとう」と、炊けていなかったお米をリゾットにしてくれました。ありがとうと言われた時は、私の胸は張り裂けるほどうれしく、小さいお母さんになった気分でした。今では、仕事で遅くなる時は、簡単なおかずを作り、ご飯も炊けるようになりました。母の病気の再発もなく、私たちが全てに一生懸命取り組む事が母の栄養源になると信じ、みんなで切磋琢磨しながら一日一日を大切に楽しく頑張っています。私を道場に送ることができない日は、バスや電車を乗りつぎ一時間かけて行っています。また一人で三時間かけて出稽古に行くこともありました。周りからは大変だねとか、可愛そうだねとか言われますが、精神的にも強くなるには自分自身が頑張っていかなければならない。さみしいとか、苦しいと思うのではなく、それを幸せだと感じ将来の自分の力になることを信じて、出来ることを少しずつ増やし、周りからの愛情もいただきながら進んでいます。電車の窓から景色を見ていると、不安などなくワクワクした不思議な気持ち、また一人で反省できる場所なのかもしれません。すべては強くなるためだと思っています。私の夢は警察官になり、剣道で身に付けた正義や、努力は人を裏切らないということを伝えていきたい。そして、周りの人に勇気や自信を与えられる大人になりたいと強く思います。つい先日、私のあこがれるイタリアの世界選手権で3位になった川越愛選手に稽古をつけていただきました。川越選手も小学3年生から剣道を始め、人一倍努力を積み重ねてきたと聞きました。私も、もっともっと努力をしていつか世界の舞台に立ちたい。

「未来の私へ」どんな大人になっていますか?夢であった警察官になって活躍していますか?困っている人に優しく手を差し伸べられる人になっていますか?剣道のすばらしさを世界に広げていますか?そんな未来の私にいつの日か自信を持って会える大人になりたい。これからも逃げればそれまで。立ち向かえば必ず先がある。そして迷えば原点に戻り、聞きなさい、さがしなさい、見つけなさいの言葉をはげみに、すべての人に感謝の気持ちを忘れず自分を磨いていきたいです。